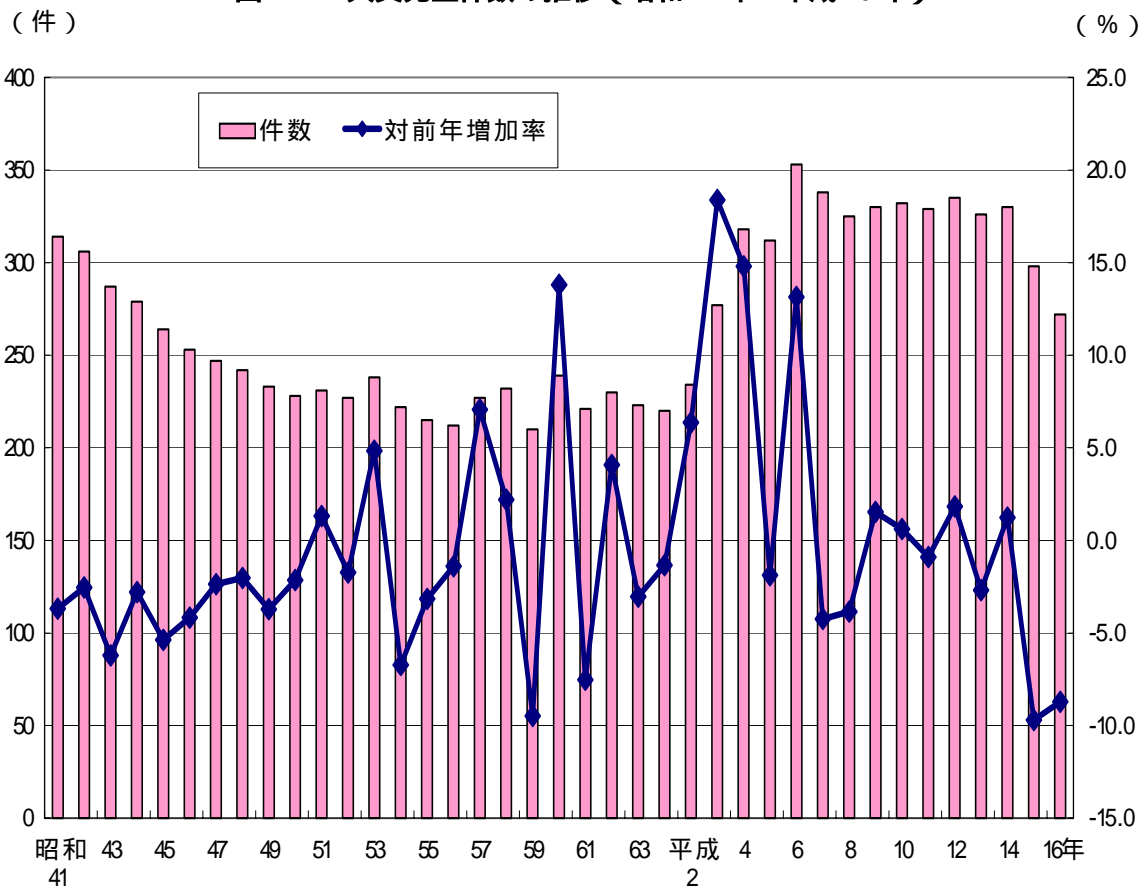


表 - 1 行政区別・月別火災発生件数

行政区	年計	平成16年											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
京都市	272	25	29	21	22	21	30	25	21	11	19	18	30
北 京 市	15	1	4	1	3	1	1	-	3	1	-	-	-
上 京 市	16	3	1	1	-	2	-	1	1	2	2	2	1
左 京 市	39	6	5	4	1	3	2	3	2	1	3	5	4
中 京 市	23	1	1	3	3	1	2	2	2	1	2	-	5
東 山 市	16	1	-	3	-	1	4	1	1	1	1	1	2
山 科 市	24	3	3	1	1	3	3	3	-	-	2	1	4
下 京 市	14	1	-	1	1	1	2	2	1	1	1	1	2
南 京 市	31	1	4	2	4	3	5	4	2	1	1	1	3
右 京 市	34	-	7	2	3	5	2	2	4	1	-	2	6
西 京 市	20	1	1	2	2	1	4	1	1	-	3	3	1
伏見区	40	7	3	1	4	-	5	6	4	2	4	2	2

資料：消防局警防部消防救助課

図 - 1 火災発生件数の推移（昭和41年～平成16年）



## 京都市内の火災発生件数（平成 16 年）

- 発生件数，り災世帯数，り災人員，死者数は減少  
負傷者数，損害額は増加 -

平成 16 年中に京都市内で発生した火災の件数は 272 件で，前年に比べ 26 件減少し，対前年増加率は 8.7 割減となっています。

行政区別で見ますと，伏見区が 40 件（構成比 14.7 割）と最も多く，次いで左京区の 39 件（同 14.3 割），右京区の 34 件（同 12.5 割），南区の 31 件（同 11.4 割）と続いています。逆に最も少ないのは下京区の 14 件（同 5.1 割）で，次いで北区の 15 件（同 5.5 割），上京区，東山区の 16 件（ともに同 5.9 割）の順となっています。

月別に見ますと，6 月，12 月が 30 件と最も多く，次いで 2 月（29 件），1 月，7 月（ともに 25 件）の順に多く，逆に少ない月は 9 月が 11 件と最も少なく，11 月（18 件），10 月（19 件）の順となっています。

### 【表 - 1】

発生件数の推移を見ますと，昭和 43 年以降，200 件台が続き，59 年には 210 件まで減少しました。しかし，平成 4 年以降は 300 件台が続いており，平成 7 年からは 330 件前後で推移していましたが，平成 15 年が 298 件，平成 16 年が 272 件と 2 年連続減少しております。

### 【図 - 1】

表 - 2 火災状況（平成 14 年～16 年）

項 目	平成14年	平成15年	平成16年	
火災種別 件数	合計	330	298	272
	建物	252	216	217
	林野	5	2	8
	車両	45	48	33
	その他	28	32	14
り災	世帯数	357	277	256
	人員	682	552	524
死者数 (人)	死者	21	22	11
	負傷者	105	85	89
損害額 (1,000円)	558,760	321,822	387,255	

資料：消防局警防部消防救助課

火災件数を火災種別に見ますと，建物が 217 件で最も多く，全体の 79.8 割を占めています。

また，り災世帯数は 256 世帯で，前年に比べ 21 世帯の減少となっています。火災による死者は 11 人で，前年に比べ 11 人の減少，負傷者は 89 人で，前年に比べ 4 人の増加となっています。損害額は 3 億 8725 万 5 千円で，前年に比べ 20.3 割の増加となっています。

### 【表 - 2】

火災件数を火災原因別に見ますと，放火（疑いを含む）による火災が最も多く 64 件（構成比 23.5 割）となっており，次いでたばこによる火災が 48 件（同 17.6 割），天ぷらなべによる火災が 20 件（同 7.4 割）の順となっています。

### 【表 - 3】

表 - 3 主な火災原因別  
火災件数（平成 16 年）

火災原因	件数
放火（疑いを含む）	64
たばこ	48
天ぷらなべ	20
ガスこんろ	11
コード	11
石油ストーブ	10
電気ストーブ	8
ローソク	8
その他	92

資料：消防局警防部消防救助課